氏は境町出身である）。また、売電収入については、鈴木家の意向もあり、教育や子育て支援などに活用していく予定となっている。

現在、町保有の遊休地など35カ所に発電装置を設置して売電を開始しており、売り上げのうち一部を町の貯蓄積み立てに利用している。

第二に、補助金の獲得である。境町は継続的に事業計画を拡大している。事業計画を着実に進めるためには財源が必要であるため、積極的に補助金の申請を推進している。主な事業計画としては、「道の駅さかい」に併設するレストランの新設事業などがある（**写真1**）。

レストランのデザインは新国立競技場の設計者であり、世界的に有名な建築家である隈研吾氏の事務所によって手掛けられ、ふるさと納税の品物を直接購入し、かつ食事を楽しむ施設となっている。また、6次産業の拠点施設としての活用が予定されている。レストランは観光の拠点としてや、設備そのものを視察や研修の受け入れ先に活用することで、交流人口の増加という効果が期待されている。

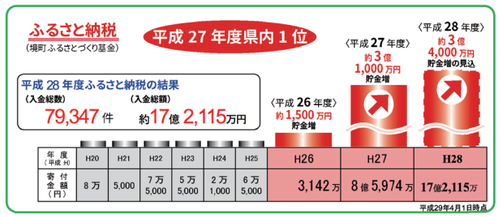
第三に、ふるさと納税がある。境町がふるさと納税に本格的に取り組む前に、先行事例として各務原市（岐阜県）を参考にした。戦略的にふるさと納税に取り組むことにより、寄付額が2015年度と2016年度は茨城県内第1位となり、大幅な寄付額の増加に成功した。

また、ふるさと納税の大手ポータルサイトを利用する一方で、2016年から同町の特設サイトを作り、受け付けを開始している。こうした取り組みが効果を発揮し、年々多くの寄付を得ている額においては境町が第1位となり、新聞などのメディアに取り上げられることも増え、町のPRの効果も大きくなっている。

さらに、境町では原則として、返礼品を地場から購入している。例えば8億円の寄付があれば4割（2017年7月末以降は3割に変更）の3億2000万円は地場産品を購入している。そのため、ふるさと納税の寄付額の増加が直接、地元商品の売り上げ増加につながっている。

ふるさと納税を契機に、再度商品を購入するリピーターも現れつつあり、返礼品提供の協力者の中には、売り上げ増によって黒字化した事業者もあった。中には、黒字化をきっかけに、市内の小中学校の給食用として商品を無償提供する事業者なども出ている。事業者の活性化による利益が地元に還元される流れも見られるようになった。

図表4　境町のふるさと納税の経緯



出典：境町

教育においては、一つの目玉事業として、フィリピンから教師資格を持つ3人の講師を招聘（しょうへい）した。そしてモデル校の境小学校において1年生から6年生まで毎日45分間の英語の授業を行う。この事業はふるさと納税の寄付金を活用する。民間の学習塾では月に3万円ほど経費が掛かるが、境町で実施する場合は月3000円のコストで済む計算である。

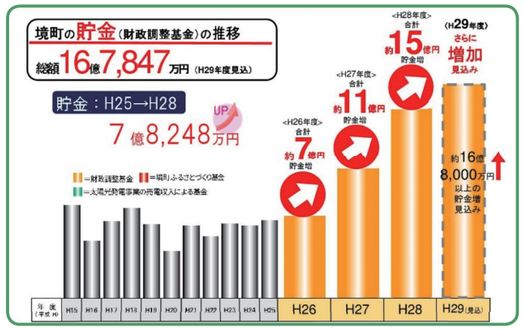
同事業はグローバル人材育成を目的に実施する。将来的には全小中学校7校への導入を検討している。同時に本事業の推進により、境町ではハイレベルな英語教育を受けることができるという町の新たな魅力向上の効果も期待されている。

さらに、農業政策にも力を入れつつある。コメの生産調整（減反）廃止や農産物貿易の自由化の動きに対応できるよう、新時代の農業家育成を目的に、2017年6月に株式会社舞台ファーム（仙台市）と包括連携協定を締結した。同社からさまざまなノウハウを得ながら、町内農業家のサポートと育成を行い、加工や物流を含めた視点で農業の可能性を広げ町の農業活性化に向けて取り組みを行っている。

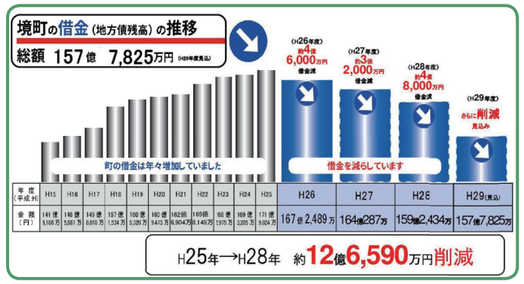
＊＊＊

本稿では、境町の現状と取り組み、その効果について紹介してきた。同町は先行事例に学び、スピード感を持って施策を打っている点が特長である。次回は、これら境町の取り組みを通じ、同町のシティプロモーションについて述べる。

図表5　境町の貯金の推移



図表6　境町の借金の推移



出典：境町

に活用されている。

4．ひとの創生の取り組み

高齢者のための生きがいづくりを目的に、2016年9月「境町いきいき福祉大会」を実施した。12年ぶりに復活した同大会では、俳優の松平健さん、タレントの毒蝮三太夫さん、歌手のさこみちよさんらの豪華な出演陣によるステージが開催され、700名を超える高齢者が参加した。このイベントは各行政区の老人クラブの活性化を促し、新たに三つのクラブが創設されるなどの効果が表れている。

また、ふるさと納税の寄付金を活用し、2017年9月より「葉酸サプリプロジェクト事業」と「健幸マイレージ事業」の二つの健康増進プロジェクトがスタートする。同事業は、住民の健康増進を目的に実施する。葉酸サプリプロジェクト事業は先行事例の坂戸市（埼玉県）を参考としている。坂戸市では女子栄養大学と協働を進め、葉酸を含む食品の開発などを行い、1日400マイクログラムの葉酸を摂取する運動を展開している。その結果、坂戸市では2006年度と2007年度の2年間で医療介護費を約22・3億円も節減することに成功している。

境町葉酸サプリプロジェクト事業は、株式会社DHCと連携し、葉酸サプリメントの配布を町内の65歳以上に行う予定である。1日1粒を摂取することで、脳卒中や認知症等の予防が期待される。

もう一つの健幸マイレージ事業はポイント制度が土台となっている。18歳以上を対象に、健康づくりイベントやボランティアに参加するとポイント（マイル）がたまる仕組みである。たまったポイントは健康食品や葉酸サプリと交換可能となる。健康増進プロジェクトの推進により、健康寿命の延伸や、人口の維持などの効果が期待される。